

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800265		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地 (電話番号)	島根県益田市高津町4丁目11-16 (電話) 0856-23-7777		
評価機関名	NPO島根介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地STICビル		
訪問調査日	平成19年 8月16日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	19人	常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 11.2人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築(一部改築)
建物構造	木造 造り	
	階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	210 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8月16日現在)

利用者人数	15名	男性 2名	女性 13名
要介護1	8名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢	平均 88.5歳	最低 79歳	最高 100歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院 松ヶ丘病院 中島歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

創始者自らが庭の手入れをしている、大きな門構えの旧家にグループホーム15名、有料ホーム3名の入居者が暮らしている。それぞれのユニット毎に入居者・家族の思いを尊重した生活に努めている。過去には4件のターミナルケアを実践した経験を持っており、職員は入居者の方には出来る限り終身まで過して頂きたいという共通認識がある。昨年12月に管理者の交代があったが、新しい管理者同士補い合い職員も協力し、より良いホーム作りを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日曜日にも入浴できるよう勤務体制を整えているところで、1日おきだった方はシャワー浴だけでも毎日実施するよう改善されており、今後が期待される。申し送りも勤務に入る前に記録物を確認し漏れの無いように心掛けている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価をケアの振り返り、サービス向上の良い機会と捉え職員全体で認識している。また、自己評価は毎月の会議の際に独自で介護サービス自己評価・改善シートを作成し、職員個々が記入をし話し合いそれを管理者がまとめている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の意義を真摯に捕らえ年間計画をたて2ヶ月に1度実施している。5月の会の際には“徘徊SOSネットワーク”を構築するため益田警察署駅前交番の方も招き話し合い地域の方からも話をしてもらっている。自転車があるといい等の意見があり、すぐに準備されている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来所の際に出た意見等はすぐに話し合い対応している。年に1度法人全体の施設の利用者家族に無記名でのアンケートを配布している。そこで出た意見苦情は本部でまとめ統括部長のほうでそれに対する改善方法や今後の取り組み方法を記入し、各施設に配布し会議の際に話し合っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大正琴のボランティアを受け入れたり、自治会へ加入し回覧板を回したり、地域の草刈等がある際は地域の一員として参加をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして今までの生活に近い環境作り、なじみの関りを大切にするということを念頭に置いた理念が作られている。	<input type="radio"/>	「地域住民との交流の下で」の活動の意義を地域密着型サービス事業所理念としてどう位置づけるか十分な論議をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員で共有し入居者への日々のケアに取り組んでおり、毎月の会議では理念にあったケアを実践出来ているか自己評価にて振り返りも実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加を始めとし、地域での敬老会・盆踊り等の行事ごとに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の会議の際に職員個々で自己評価をし管理者がまとめている。自己評価・外部評価を実施する意義を管理者を始めとし職員も共有認識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の計画をたて運営推進会議を実施している。また、そこで出た意見は真摯に捉えサービス向上に繋がるよう取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	統括部長が何か相談事等ある際には担当者の方と相談・連絡を取り合っている。	○	事業所としての組織的な取り組み推進に留意されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月個々に作成された写真と入居者・担当職員のコメント付の新聞を家族に配布しホーム内での様子を知らせている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	年に1度法人全体の施設利用者家族に当たった無記名のアンケートを配布し、統括部長がそれに対する改善策や対応のコメントを付けまとめて各事業所にて会議で話し合いを設けている。また、面会時等に出た意見は早急に話し合い運営やケアに反映している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	以前は職員・管理者の交代はあったものの、現在は異動はない。移動があった際は入居者に説明紹介をし不安等を防ぐ配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	順番で管理者及び職員は研修に参加しており、会議にて順次報告をし研修受講の機会を確保し共有している。また、研修報告書もきちんと整備されており、会議に参加できなかった職員が目を通しても分かりやすい報告となっている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	主に統括部長が参加をしそこであった話は各ユニットに報告されている。	○	日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な職員レベルでの交流も検討いただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には統括部長や管理者が事前に訪問し、本人・家族との話し合いにて体験入所を実施したりしながら段階を経て馴染める様支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設裏には畑があり、そこで菜園作りを行っておられる。食事作りも入居者と一緒に行っておられ、掃除も職員が行っていると入居者自らが箸を持ち取り組んでおられる。また、話し声の絶えないホームである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにあわせた声掛け等をして希望等の把握に努めている。	○	東京センター方式の活用などでさらに充実されるよう期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合いの上で希望等を取り入れ職員からも日々の生活の様子等を聞きながら介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに見直しを実施されているが、入居者の変化に応じた介護計画の見直しは出来ていない。	○	家族とのカンファレンスや面会時の要望等を取り入れ、また入居者の変化に応じてその都度見直しをされることが望ましい。介護計画の見直しは一ヶ月に一度を原則に取り組みで頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助等その時の状況に応じて柔軟な対応を心掛けておられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも入居以前からのかかりつけ医や専門科医への受診介助等の支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期も出来る限りケアを行いたいという施設全体の意見であり、出来る限り家族との話し合いをしながら要望も受け入れ重度化や看取りも支援できるよう職員全員でホームの方針を周知されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々にあった話し掛けや対応を実施している。また、記録等もきちんと保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの居場所作りやペースを心掛けておられ、無理強いせずに過してもらっておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族から野菜の差し入れが多いようで、季節の野菜がふんだんに盛り込まれている。配膳等出来る限りのことを入居者に手伝ってもらっている。また、会話も多く準備も楽しそうに行なっている。職員も一緒に入居者と食事をとっておりその日の食事の味を共有し会話も多い食卓である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昨年は日中だけであり課題であったが、改善する方向で検討中である。一日置きに入浴を実施していた方にはシャワー浴も勧めてみたり、今までは無かった日曜日の入浴を実施して徐々に取り組んでいる。	○	今後入居される方へも配慮し、日中・夜間問わず入浴支援が対応できるよう支援して頂きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る入居者には食事の準備や配膳を実施してもらっている。入居者一人ひとりの状態に合わせた役割を職員と一緒にやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くには万葉の里公園がありそちらにドライブや紅葉を見に出掛けたりしているが、入居者の身体機能の低下も伴い買い物や散歩の支援が出来かねている。	○	入居者の希望にあわせた買い物や散歩の継続方法の検討をし、入居者のレベルにあった外出支援を実施することを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓等鍵はかかっておらず、自由に入出入りが出来るよう支援がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力にて避難訓練実施しており、その時々で待避所も変えてどのような時にでも対応できるよう訓練をしている。また、地域の方にも協力をしてもらう体制を整えている。	○	地域の人々の協力を得て災害対策を充実するとともに三日分程度の水と食料品を備蓄することも検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分摂取できるよう日中は食堂に夜間は各居室にお茶が置いてある。また、食事の量をチェック表に記録し支援している。	○	関係機関との交流を進めることも念頭に時には管理栄養士によるチェックを依頼する活動も検討頂きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さりげなく花や入居者の作品である習字・絵手紙が飾られ、台所の窓からは遠くに海と町並みが眺めることが出来る。玄関周りも実際に使用されていた民家ということもあってか落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人の好みにあわせたの家具や雑誌の切り抜きなど飾られており、入居者が居心地よく過ごせるようされている。		